

くまもと禁煙推進フォーラムについて

熊本市民病院神経内科 橋本洋一郎

要約

1. 禁煙の社会活動を行う「くまもと禁煙推進フォーラム」を設立し活動を始めた。
2. 分科会を立ち上げて自律的に活動を展開している。
3. ホームページも立ち上がっている (<http://square.umin.ac.jp/nosmoke/>)。
4. 仲間が集うことにより、大きな成果を上げてきている。
5. さらに多くの仲間に入会して頂くことを願っている。

キーワード：くまもと禁煙推進フォーラム、社会活動、学校こそまず禁煙、医療機関の禁煙化、mission

1. はじめに

研修2年目（1982年）に「脳梗塞を急性心筋梗塞並に治療できるようにする」という目標を持って、脳卒中を専門とする神経内科医（stroke neurologist）を目指すことにした。しかし、急性期医療のみでは脳卒中診療はなりたないことを国立循環器病センターでの3年間の勤務で思い知り、その後、熊本で脳卒中診療ネットワーク（地域完結型の脳卒中診療態勢）構築を20年近くかけて多くの仲間と行い、成果を上げてきた。生活習慣病の行き着く先である脳卒中、寝たきり、認知症を診療している立場から最大の治療は予防であることを実感している。喫煙は、がん、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、虚血性心疾患のみならず脳梗塞、くも膜下出血、アルツハイマー病の発症促進因子である。

生活習慣病予防の基本は、「**禁煙と適正体重維持**」である。2006年6月7日に参議院厚生労働委員会で参考人として「医療制度改革法案」に対して意見陳述をさせていただいた。民主党の足立議員の「タバコの値段を上げると未成年者の喫煙が減ると言われているが、どうですか？」という質問に対し、「中学校や高校で覚えた味は一生わすれない。タバコ1箱を千円にすると未成年者の喫煙が減る」と述べた。委員会に出席していた国会議員さんは大爆笑で、日本の現状を思い知った。

熊本県はスクランブル交差点、二輪車の昼間点灯、医療連携（診療ネットワークの構築）などの画期的な試みを全国に先駆けてやってきたが、禁煙に関しては後進県である。熊本市のあるタクシー会社は全国に先駆けて全車禁煙を実施し、大変注目された。しかし地域全体の全車禁煙では、他の地域に先を越されてしまい、2009年4月にやっと実現した。

今まで、多くの方が個々に禁煙活動を行ってきたが、その力が結集することによって大きな力となり、大きな流れを創ることができると考え、2009年4月に禁煙の社会活動を行う「くまもと禁煙推進フォーラム」を設立し活動を開始した。

2. 目的・活動方針・会員資格

禁煙については個々のさまざまな活動が行われて、それなりの成果を出していると考えられるが、行政を巻き込んだ地域の大きな流れにするには多大な困難を伴う。神奈川県動きは例外的なものと考えられる。我々は、熊本県における禁煙に関する社会活動を行うために「くまもと禁煙推進フォーラム」を有志で設立した。

2009年2月11日に禁煙飲食店で設立準備会を5名で行い、今後の活動方針などについて話合った。会の名称を「熊本禁煙推進フォーラム」(2009年12月に「くまもと禁煙推進フォーラム」と改称)とすることを決定し、以後、会則などについてメールで何度もやり取りを行った。4月1日をフォーラム設立日とし、医療従事者や教育関係者に入会を呼びかけることにした。入会や社会活動について口コミ、ホームページ開設(<http://square.umin.ac.jp/nosmoke/>)、マスコミを通じてアプローチを行った(年会費3000円)。本フォーラムの目的、活動方針、会員資格を表1に示す。

表1. くまもと禁煙推進フォーラムの目的・活動方針・会員資格

1) 目的

くまもと禁煙推進フォーラムは、熊本県を中心に、社会の禁煙化を推進し、能動喫煙および受動喫煙の害の撲滅、未成年者の喫煙防止を目的とした社会的な活動を行う。

2) 活動方針

くまもと禁煙推進フォーラムは、前条の目的を達成するために、以下の活動を行う。

- ① 能動喫煙および受動喫煙の害に関する正しい知識を県民へ普及させる。
- ② 喫煙防止教育に積極的に協力・参画し、喫煙開始を防止する。
- ③ 医療機関、教育機関、地域、公共の場、職域等における禁煙を推進するための社会的活動を行う。
- ④ 医療の中での禁煙推進に関する正しい知識を普及させる。
- ⑤ 社会の禁煙化を推進するための事業を行う。
- ⑥ 他の禁煙推進団体と協調・連携を行う。
- ⑦ 会員相互の交流・親睦を図る。会員相互の情報交換のためメーリングリストを運営する。
- ⑧ 会のホームページを運営する。
- ⑨ その他、目的を達成するために必要な活動を行う。

3) 会員資格

本会の会員は、目的に賛同し、かつ次の条件を満たすものとする。

- ① 非喫煙者または禁煙達成者(過去喫煙者)。
- ② タバコの生産、販売および消費を奨励または助長する活動を行わない。
- ③ タバコ産業やその関連研究機関から、寄付・研究費を受け取らない。

3. 活動内容

(1) 受動喫煙対策

まず県立大学、熊本空港、地域体育館、ファミリーレストラン、熊本市動植物園など会員の指摘で問題点が見つかった数カ所に受動喫煙対策について文書を送付し対応を促した。

熊本県の玄関である熊本空港では、ターミナルビルから外にでるとタクシー乗り場、バス乗り場の前など数カ所に灰皿が設置され、多くの喫煙者による喫煙でその場のみならず、ターミナルからの出口、あるいはターミナル内へのタバコ煙が流れ込み、大変不快な状況が続いていた。本フォーラムの申し入れで灰皿の撤去が行われ、入り口に禁煙についての張り紙がなされ一定の効果は認められたが、一部の灰皿が残された。2010年になりそれも撤去され、無煙環境となった。

(2) キックオフ・ミーティング

2009年5月31日の世界禁煙デーにキックオフミーティング（第1回総会）を行い、約60名の参加を得た。各科の医師、看護師、薬剤師、教育関係者など色々な立場の講師10名の講演を聴き、討議を行い大変濃厚な会であった。

その中で熊本県の公立小中高校の敷地内禁煙が全国最低の18%であることが報告された（日本小児科連絡協議会・子どもをタバコの害から守る合同委員会、衛藤 隆委員長、調査資料、全国学校禁煙マップ <http://www.kawasaki-disease.net/~kinen/index.php>）。日本の中でも熊本県の禁煙対策が遅れていることが明白となった。そこで2009年の標語を「学校こそ まず禁煙」とした。

共催メーカー（スポンサー）なしのニュートラルな会運営を行うこと、部会を創り自律的に活動を展開していくことを確認した。

2010年1月の時点での会員は87名（うち世話人8名）で、mailing listで活発な討論を行っている。会員は医師、薬剤師、看護師、教育関係者など多職種から構成されており、mailing listによるやり取りには名前には「先生」ではなく「さん」を付けることとした。土森武友さんの無煙ニュースもメーリングリストで流されている。

(3) 選挙立候補予定者へのアンケート

衆議院選挙熊本選挙区立候補予定者にタバコ問題についてアンケート（17名中6名から返事を得て35%の回収率）を行い、結果をホームページに掲載した。

(4) 部会の設立

部会を創り自律的に活動を展開していくことになり、表2に示したプロジェクトと部会が立ち上がって、活動が開始された。思った以上に活動が急速に展開されている。

表 2. 分科会の設立と活動

<p>【学校こそまず禁煙！プロジェクト】</p> <p>教育機関の禁煙化：県内全学校の禁煙状況の調査など</p> <p>教材作成：スライドを作成、講演後に渡す資料等の作成</p> <p>講師育成：禁煙講演を引き受けられる講師育成</p> <p>【医療機関の禁煙化・禁煙外来設立支援プロジェクト】</p> <p>医療機関の禁煙化支援の講演、禁煙外来設立指南・外来運営相談</p> <p>テキスト「敷地内禁煙と禁煙外来実践の要点」を作成</p> <p>【禁煙飲食店プロジェクト】</p> <p>完全禁煙飲食店の応援・紹介、(可能なら)禁煙飲食店グルメ本</p> <p>活動内容をホームページで紹介</p> <p>【社会環境調査部会】</p> <p>状態の調査(庁舎・議会・病院・学校・公共施設・冠婚葬祭場、 宴会)、いろいろな意識調査、データ収集 等</p> <p>【ロゴマーク作成部会】</p> <p>ロゴマークの作成依頼、選定</p>

(1) 「学校こそまず禁煙」プロジェクト

学校の禁煙・未成年者の喫煙予防について講義を最優先で行うために「学校こそまず禁煙」プロジェクトでは、①教育機関の禁煙化、②教材作成、③講師育成のための企画が立ち上がった。講義用スライド作成を行い、11月に完成した。2010年1月17日に開催された臨時総会で提示された。

(2) 医療機関の禁煙化・禁煙外来設立支援プロジェクト

2009年9月末日締切で、冊子「敷地内禁煙と禁煙外来実践の要点」(本冊子)を作成することになった。本フォーラムの会員を中心に執筆し、委員長の水野雄二、さらに副代表で事務局の高野義久と代表の橋本洋一郎の3名で原稿をチェックし、必要に応じて書き直しをお願いしている。内容についての責任は編集者3名で負うことにした。個々の原稿が完成した時点でメーリングリストを用いて会員に提示し、意見を募っている。最終的にはホームページで全ての原稿を公開予定である。なお全ての内容を会員のみでは執筆できないため会員外の方にもボランティアで執筆頂いている。

(3) 禁煙飲食店プロジェクト

禁煙飲食店のマップ作成、あるいは紹介をホームページで行っている。

(4) 社会環境調査部会

喫煙や受動喫煙の問題などについてアンケートを行っている。一部が地元紙に掲載されている(マスコミの対応参照)。

(5) ロゴマーク部会

本フォーラムのロゴを作成するために崇城大学芸術学部デザイン学科の協力を得て、学生にロゴ作成募集を行った。2009年7月に募集を行ったが、1件の応募もなかった。学生の試験や他のロゴ募集と重なったためと考え、再度、時期を変え8月1日～9月30日を募集期間とした。今回は10点の応募があり、デザイン学科の先生とフォーラムの担当者2名の計3名で一次審査を行い、3点に絞って、10月下旬から11月末日までの期間に会員によるメールでの投票（二次審査）が行われ決定した（下図）。

作者のデザインコンセプトは「禁煙した方がよい」とのことである。タバコのシルエットを真ん中で折ることで禁煙の決意と熊本県の「く」を表現、○で囲むことで従来の禁煙マークで目にするような「禁煙をなさい」というものではなく、「禁煙した方がよい」と自発的な禁煙を促進するくまもと禁煙推進フォーラムの姿勢を示している。

実はこのロゴ作成をきっかけに「熊本禁煙推進フォーラム」から「くまもと禁煙推進フォーラム」に2009年12月に改称した。実際、ひらがな・漢字・カタカナの名称となるとバランスもよく禁煙推進という言葉が浮かび上がることも有用と考えたからである。



(5) マスコミの対応

地元紙に2009年5月13日（会設立、総会の案内）、5月30日（禁煙のうれしい効果というタイトルで総会の案内、<http://qq.kumanichi.com/medical/2009/05/post-325.php>）、6月1日（会の開催）、6月7日（小中高校の敷地内禁煙率、熊本は全国最低18%、<http://qq.kumanichi.com/medical/2009/06/18.php>）、6月18日（阿蘇市来月から公立小中校敷地内禁煙・禁酒、<http://qq.kumanichi.com/medical/2009/06/post-343.php>、朝日新聞にも掲載）、6月19日（県産タバコ日本一に、40歳以上の喫煙 県内男性30.5% 完全禁煙でリスク軽減を、<http://qq.kumanichi.com/medical/2009/06/post-352.php>）などフォーラム関連や喫煙関連の記事が掲載され、大きな議論を巻き起こした。さらに本フォ

ーラムが調査を行った教育機関の敷地内禁煙化アンケートの結果が12月28日の地元紙に「学校内敷地内『完全禁煙すべき』6割どまり」というタイトルで掲載され、また2010年1月4日には「禁煙治療 保険適用医療施設の割合 熊本は全国最低の6%、<http://qq.kumanichi.com/medical/2010/01/post-979.php>」という記事も掲載された。

(6) 行政へのアプローチ

2009年6月23日に熊本県健康福祉部健康づくり推進課に会員3名で熊本県における禁煙対策、特に学校における禁煙対策などについてのご願いと今後の活動への協力をお願いした。また11月7日に熊本県教育委員会委員長にも面談頂いた。

(7) がん対策

2007年4月に施行されたがん対策基本法のもと、国・各地方自治体はがん対策推進基本計画を策定し、「がんの予防」、「早期発見」、「診療の均てん化」、「緩和ケアの普及」などを目標に事業を行なっている。熊本県も「がんの予防」として「未成年者の喫煙率0%」を目標に掲げていたが、がん診療の均てん化事業や検診普及事業に比較し具体的活動が行なわれていない状況であった。本フォーラムは2009年8月28日に開催された熊本県がん診療連携協議会主催のがん治療フォーラムにてがん対策としての禁煙に関する講演を行い、がん診療に関わる医療者へ禁煙推進の重要性を啓発した。この講演も含めたがん対策における本フォーラムの禁煙推進活動は「がん対策推進計画を推進するための都道府県の主な取り組み(アクションプラン)」の策定過程で話題として取り上げられ、関係者に「未成年者喫煙率0%」実現へ向けて学校敷地内全面禁煙化などより具体的な活動が必要であることを認識させるに至った。

4. 活動の成果・問題点・限界

(1) 活動の成果

色々な職種の参加があり、個々、あるいはグループで行っている禁煙活動を本フォーラム設立で集約化できて多くの大きな成果がでるようになってきている。色々な立場、違った背景を持っている会員によってメーリングリストによる情報提供や活発な討論で、タバコや禁煙に関する多くの情報や考えた方を得ることができている。

未成年者の喫煙ゼロを目指すために「学校こそ まず禁煙」という標語を2009年度の活動の標語とした。タバコは非合法薬物の入門薬剤(gateway drug)とも言われ、タバコからシンナー、大麻、覚醒剤、麻薬とエスカレートするという考えがあり、誰もが異議を唱えない未成年者の喫煙防止に力を注ぐことになった。

(2) 活動の問題点と限界

現在は、ITの発達でE-mailの活用、ホームページの作成、大容量のデータのやりとりなどで、活動の一部を効率的に行える時代であるが、多くの問題点や限界も存在する。

全て自前で行っており、特定のメンバーに負担がかかっていた。しかし部会の設置で、

その部会が自律的に活動し、最終的に世話人が承認する形で全ての活動が進むようになった。時に多くの相談や決定しなければならない事項が重なる場合には自分の仕事が忙しいときには辛いときもある。ただし週末に動きが多く、ほとんど全てをメールでやり取りしており、コンピュータ1台あればどこでも対応できるので、24時間 mobile PC を持って対応している。

「敷地内禁煙と禁煙外来実践の要点」を皆で執筆を行っているが、会員のみでは全ての項目が執筆できず、会員外の方にボランティアで執筆を依頼しているが、執筆者探しに一部苦労した。執筆者によって原稿のばらつき（特に執筆形式や文献記載など）があるが、禁煙活動をボランティアでやっている方の執筆なので、チェックしながら大変勉強になっている。禁煙関連の本や雑誌よりもよい内容であると自画自賛している。

行政との連携を強化したいが、いくつもの窓口が存在する。どこにどのようにアプローチするかが手探り状態である。アプローチできるところから少しずつやっている。禁煙活動の推進という mission を共有する仲間の会のため、警戒されることもあると思われる。

また、熊本県は葉タバコ生産が全国一位（昨年までは宮崎県が第一位）という地域の特殊事情も存在する。新聞記事が追い風にはなっているが、熊本県民からしっかり認知された会となるようにしていけばもっと活動がしやすくなるであろう。

2010年に1月17日に臨時総会を兼ねた特別講演会を開催したが、どのようにして会員以外の方々に参加して頂くかという課題もあった。医師会、薬剤師会、歯科医師会、保険医協会などの後援をどう得るか、最初は手探りであった。また特別講演は神奈川県から旅費・宿泊費自前、講演料なしで来て頂けることでやっと特別講演が開催できるといったように、本会の財政的基盤は極めて脆弱である。ただし補助金やスポンサーのない活動であるので、永久に行える活動でもある。

（3）ミッション mission と展望

物事を行うには明確な mission、さらに passion や high tension も必要であるが、それだけではなく attraction や vacation も必要であると九州医療センターの岡田 靖先生が言っている。本会員にとっては活動そのものが attraction や vacation になっている人もいるかもしれない。実際、熊本の温泉地で vacation を楽しむときに受動喫煙に晒されることなく、よい時間を過ごせるようにもしたいものである。さらにメンバー内あるいはメンバー外との communication も大変重要であるが、本フォーラムの設立のお陰で多くの方と知り合うことができ、大きく世界が広がった。

社会全体で禁煙に関する関心がこれまで以上に高くなっており、今は大変よい時期である。健康増進や子どものよりよき教育環境作りにも禁煙活動は大きな役割を果たせると考えている。少しずつ会員も増加しており、さらなる活動（禁煙キャラバン隊による活動など）を2010年には行う予定である。本フォーラムが今後さらに社会から受け入れられるように上手く活動を展開出来ればと考えている。

5. 最後に（乞う、入会）

熊本市民病院も2008年元旦から、やっと敷地内禁煙になり、禁煙外来が循環器内科で開始された。2009年8月より神経内科と呼吸器科でも禁煙外来を開始し、少しずつ治療患者も増加しており、足下の活動も徐々に実を結んできている。さらに本フォーラム設立で仲間ができ、多くの情報を得ることができるようになった。個々での取り組みとともに社会全体での取り組みも必要であるとさらに思うようになった。社会の無煙化という明確な mission があれば、多くのメンバーがボランティアで禁煙社会活動を展開できることが分かった。今後は、小・中・高校生への喫煙防止教育の推進、学校敷地内禁煙化、医療施設の敷地内禁煙化、受動喫煙を防止する社会活動に重点を置き、活動していく方針である。

志を同じくする方の入会を切望している。

入会の問い合わせ

【くまもと禁煙推進フォーラム事務局】

くまもと禁煙推進フォーラム副代表 高野義久

たかの呼吸器科内科クリニック FAX 0965-32-2729

連絡先メールアドレス smokefreeaction@yahoo.co.jp

WEBサイト:<http://square.umin.ac.jp/nosmoke/>